

【奨励賞】

「日本に欠かせない北方領土」

登別市立緑陽中学校

2年 中村 斗希

北方領土は、元々日本固有の領土であったが、一九四五年の終戦直後にソビエト連邦に不法に占拠されてしまったのである。そのため、日本は早期返還の実現を目指しているが、戦争をしないと決めている日本では、やはり問題解決は容易なものではないのだ。そんな北方領土は一体どのようなところなのだろうか。そして、問題が起きている中、両国はどのようにして解決のために動いているのだろうか。

北方領土では、様々な産業が豊かである。まず、農業では、北海道で多く取れているが、台風が北海道に何度か来たことにより不足してしまったジャガイモや麦、そばなどを取ることができるのだ。次に、漁業では、今年、漁獲量が格段に落ちたサンマや昆布などの海藻、スケトウダラやホッケなどの魚を捕ることができるのだ。他にも、林業では松などの木が多く、鉱業では採掘鉱区も多く、豊かである。

そんな北方領土には、昔はたくさんの方が住んでいたのだが、ソビエト連邦に占拠されてしまったため、ほとんどの日本人が北方領土から追い出されてしまったのである。そして、ロシア人が住んでいるため、取り返すことは難しいのだ。

しかし、こうして問題が起きている中、共同経済活動も行われている。これは、ロシアのプーチン大統領と安倍晋三首相が会談をして、決められたものである。さらに、北方領土に住んでいるロシア人が北海道の別海町を訪れる交流会も行われている。交流会では、郷土資料館等の視察やホームビジットなど、問題のこを感させないものだった。こうして、両国ともに、問題の平和的解決へ向けての動きが高まっていることがわかる。

このように、不法に占拠されてしまっている北方領土だが、北方領土には、日本が不足している産業が発達しているため、返還は欠かせないものとなっている。だから僕は、一人でも多くの方がこの北方領土の問題と向き合い、北方領土の大切さをみんなに伝えて、国全体で解決へ向けて動いていきたいと思っている。